

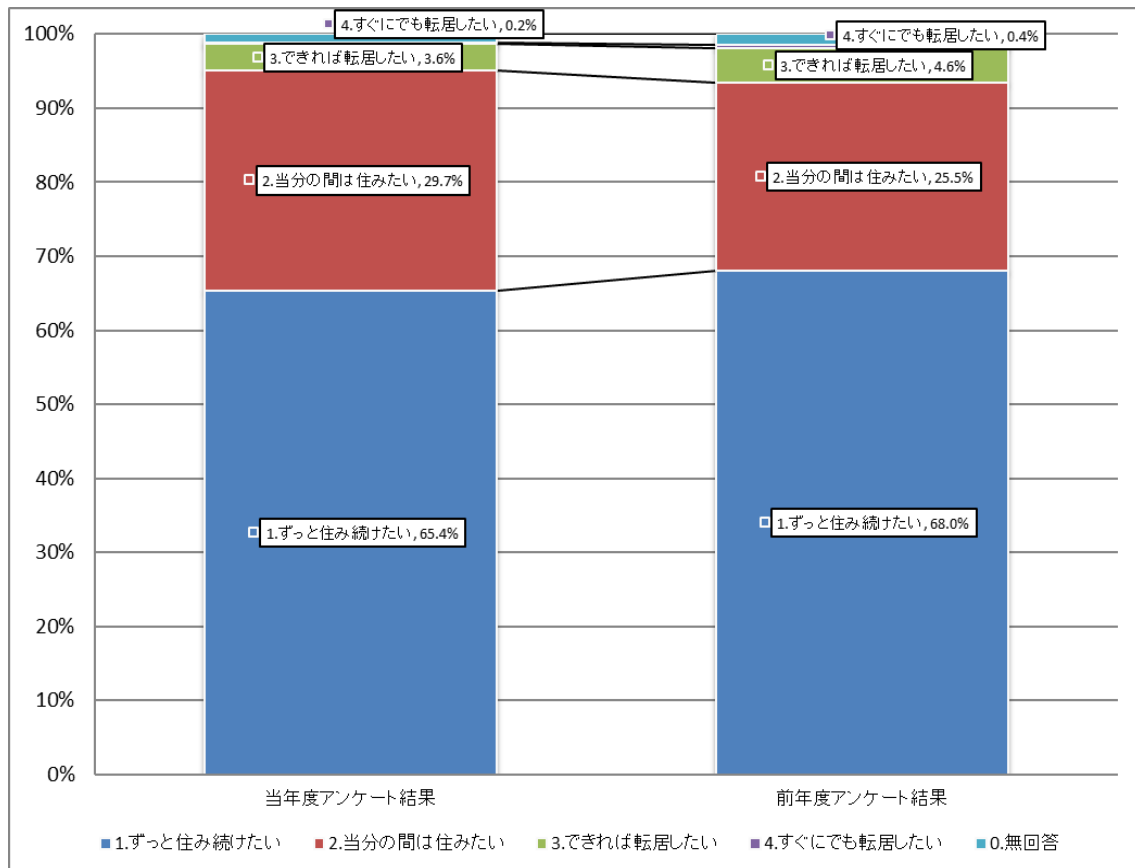
深谷市民まちづくりアンケート調査報告書（概要版）

1 調査概要

調査地域	深谷市全域
調査対象	深谷市に居住する 18 歳以上の市民 2,000 人
調査対象の抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	アンケート票を郵送により配布・回収
調査期間	令和 6 年 5 月 1 日から同年 5 月 17 日
調査項目	「深谷市のまちづくりについて（定住意識など）」 「深谷市の施策について（重要度・満足度）」
有効回答数	809 人（回答率：40.45%）

2 深谷市への定住意識について

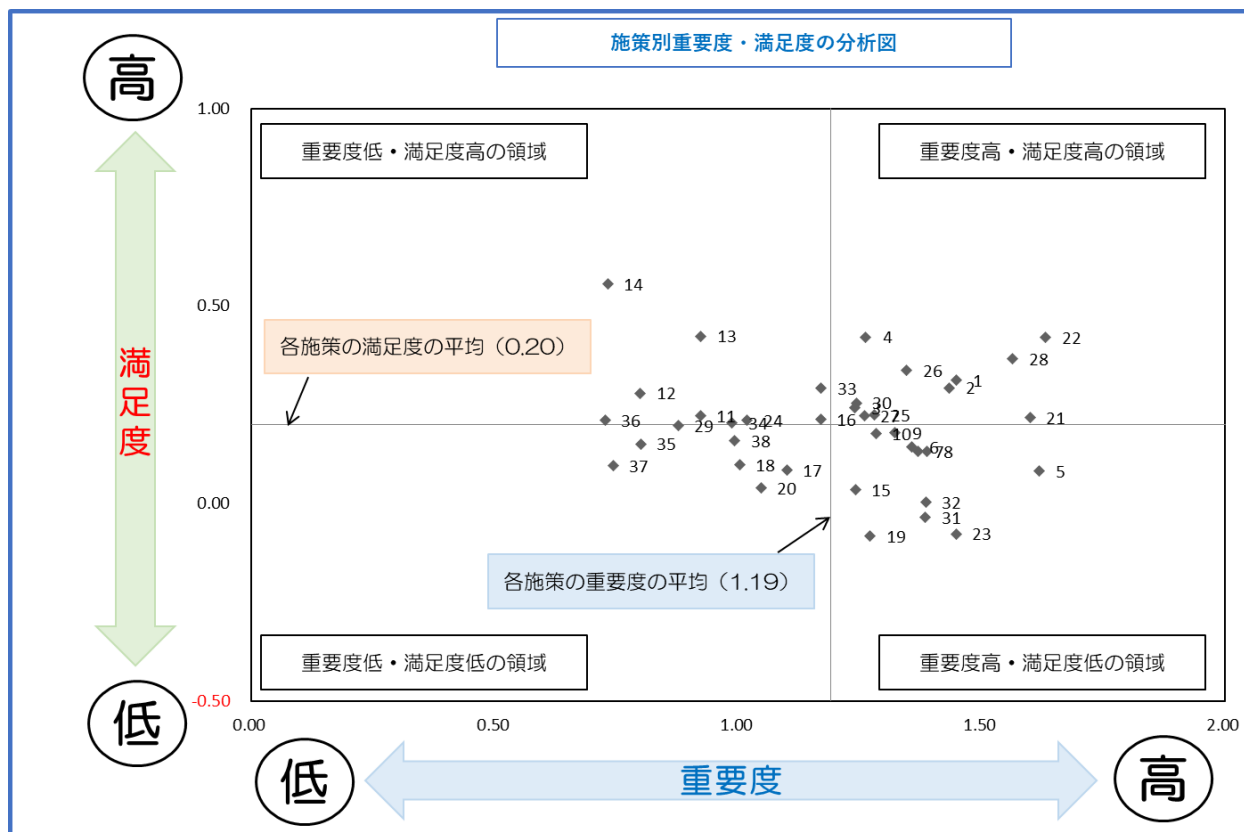
ポイント	「ずっと住み続けたい」・「当分の間住みたい」と回答した割合は 9 割を超えます。
------	--



「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 65.4%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 29.7%となっています。合計は 95.1%と 9 割を超えており、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

3 深谷市の施策について

(1) 施策別重要度・満足度の分布状況



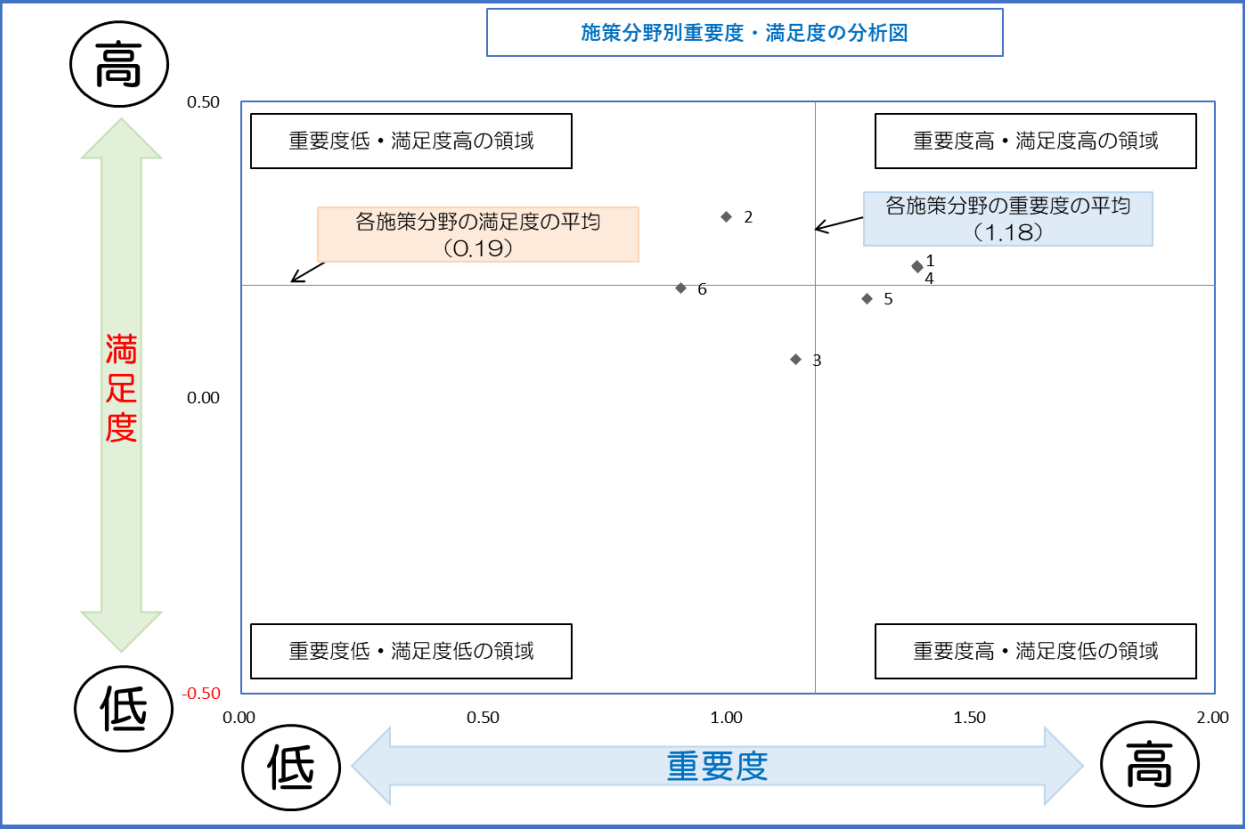
【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	21	災害に強い防災体制の推進
24	地域コミュニティの推進	22	消防・救急体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	25	自然・生活環境の保全
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	26	環境衛生の推進
34	男女共同参画の実現	27	良好な市街地・住環境形成の推進
36	市民との協働・交流の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
35	移住・定住の推進	8	障害者福祉の推進
37	行政デジタル化の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
38	行財政運営の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

重要度が高い上位5施策は、順に「22.消防・救急体制の充実」、「5.地域医療体制の充実」、「21.災害に強い防災体制の推進」、「28.水の安定供給と下水処理の適正化」、「1.子育て支援の充実」でした。満足度が高い上位5施策は、順に「14.渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「13.郷土の歴史・文化の継承と活用」、「4.健康づくりの推進」、「22.消防・救急体制の充実」、「28.水の安定供給と下水処理の適正化」でした。

ポイント	全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。 <重要度高・満足度高> 重要度が高く、満足度も高い領域には、「1.子育て支援の充実」、「2.保育環境の充実」、「3.青少年の健全育成の推進」、「4.健康づくりの推進」、「21.災害に強い防災体制の推進」、「22.消防・救急体制の充実」、「25.自然・生活環境の保全」、「26.環境衛生の推進」、「27.良好な市街地・住環境形成の推進」、「28.水の安定供給と下水処理の適正化」、「30.治水対策の推進」の 11 施策が該当します。 この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。 <重要度高・満足度低> 重要度が高く、満足度が低い領域には、「5.地域医療体制の充実」、「6.地域福祉の推進」、「7.高齢者福祉の推進」、「8.障害者福祉の推進」、「9.「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10.家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「15.農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19.就労環境の整備」、「23.防犯・空き家対策の推進」、「31.道路・交通環境整備の推進」、「32.公共交通の維持確保と交通安全の推進」の 11 施策が該当します。 この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。 <重要度低・満足度高> 重要度が低く、満足度が高い領域には、「11.生涯学習の推進」、「12.スポーツ・レクリエーションの推進」、「13.郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14.渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「16.農畜産物の販売流通体制の充実」、「24.地域コミュニティの推進」、「29.地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「33.人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34.男女共同参画の実現」、「36.市民との協働・交流の推進」の 10 施策が該当します。 この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。 <重要度低・満足度低> 重要度が低く、満足度も低い領域には、「17.商工業の振興」、「18.観光資源の整備と活用」、「20.産業価値の創出」、「35.移住・定住の推進」、「37.行政デジタル化の推進」、「38.行財政運営の推進」の 6 施策が該当します。 この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。
------	---

(2) 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
		4	暮らし・環境
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	産業振興	5	都市・生活基礎
6	協働・行政経営		

ポイント

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞の領域には、「1.子育て・保健・福祉」、「4.暮らし・環境」、の2分野が該当します。

＜重要度高・満足度低＞の領域には、「5.都市・生活基礎」の1分野が該当します。

＜重要度低・満足度高＞の領域には、「2.教育・文化」の1分野が該当します。

＜重要度低・満足度低＞の領域には、「3.産業振興」、「6.協働・行政経営」の2分野が該当します。